



あさひ10号

2019年(令和1年)

7月 3日発行

福山市立旭小学校長

池田 恭子

するどく聴いて やたらほめない!

～7/2 永井先生の音楽指導より～

ほめるとは

①本人の成長を自覚させる

- ・自分は向上した
- ・自分は上手になった
- ・自分は伸びている

} という思いをもたせることが大切

②成長をともに喜ぶ

距離感を保って評価するのではなく、先生と一緒に喜んでくれる



やる気のない子にやる気を湧かせるためにこそ教師は必要

ほめるために

①「少し上手になりたい」「少しよくしたい」と意識させる

②「がんばれば乗り越えられそうだ」と思えるハードルをイメージさせる

高すぎると「そんなことできるはずがない」

低すぎると「そんなことやってもしょうがない」

③子どもたちにとって抵抗が大きいほど授業は面白くなる

分からない時こそ、伸びるチャンス

④「AさんがB君のことをとてもほめていたよ」と間接的にほめられることは直接的より3倍くらいうれしい

⑤授業を個別化する

一人一人の子どもがどうしてもやらなければならない作業が常に用意されている
主体的に関わらざるを得ない状況がある⇒学習意欲の向上

⑥「なぜか」を問う

物事の本質を問うこと

「説明」を求めること 客観的で妥当な論理を自らの心のうちに打ち立てること

ほめるときは

①機を逃さない(すぐに)

②具体的に(何を どうしたことが 何につながるのか)

③心をこめて

本校の目指す資質・能力

課題発見・解決力 コミュニケーション力
やりぬく力 思いやり

【参考文献】

野口芳宏著 「学級づくりで鍛える」
「授業で鍛える」

大村はま著 「灯し続けることば」

澤井陽介著 「学級経営は『問い』が9割」